

第512回: 渋沢栄一翁の登場

4月9日、麻生財務相は一万円、五千円、千円紙幣を20年ぶりに刷新すると発表した。登場人物は以下のとおり(寸評は筆者の勝手なコメント)。なお二千円札は従前どおりで、変更なし。

	一万円	五千円	千円
現日銀券	啓蒙思想家 福沢諭吉(1835—1901)	閨秀天才作家 樋口一葉(1872—1896)	世界的医学者 野口英世(1876—1928)
新日銀券	日本資本主義の父 渋沢栄一(1840—1931)	教育家 津田梅子(1864—1929)	近代医学の父 北里柴三郎(1853—1931)

発行は令和6(2024)年度上期となるので、我々の財布に入るのは、もう少し先のことだが、希望や生気をイメージできる澆刺とした近代の偉人が選ばれたことになる。

現行の3人と、新たな3人が生きた時代はほぼ同じであり、彼らの実績や業績は、微妙に似ているようにも、異なっているようにも見える。

福沢諭吉の“学問のすゝめ”は、当時の日本人に発破をかけた名著だが、学問に励めば賢人・貴人になれるが、励まないと愚人・貧民になるという直截的な思想は、その適否はともかく、現代社会において幅広く支持される理念ではないし、彼の中国や朝鮮に対する蔑視はチョットいただけない。

一方、樋口一葉と野口英世に共通するのは、お金の苦勞。一葉の涙ぐましい借金生活は、“にごりえ”や“十三夜”に色濃く映し出されているし、野口博士が金銭に極めてルーズな人物であったことは、偉人らしからぬ数多くの実話が示すとおりである。

現行の三人は有名人には違いないが、国際社会や金融市場を明るく照らすタイプではなさそうだ。一方新登場の三人だが、共通するのは、共に立派な教育者であること。

北里博士は日本初の西洋医学に基づく研究所を作り、近代医学の道を開いた。第1回ノーベル生理学・医学賞の最終候補にも選ばれている。

一方国費留学の第一期生として満6歳で渡米した津田梅子は帰国後に、従来の良妻賢母育成型の教育機関ではなく、リベラルアーツに力点を置いた(後の)津田塾大学を設立した。留学仲間の永井繁子は瓜生海軍大将に、山川捨松は大山陸軍元帥に嫁いたが、津田梅子は生涯独身を貫き、教育事業に身を捧げた立派な人物だ。五千円札のニュースが発表されるや、彼女の写真を見て「津田梅子さんが、実業家の堀江貴文氏(=ホリエモン)に見えて困る」という声も多数あり、彼女の写真を見て思わず吹き出してしまったが、そんな失礼なことを云ってはいけません。

そして、渋沢栄一が福沢諭吉の支援を受け明治8年に創設した“商法講習所”が、いまの一橋大学。

令和の世に入り、一万円札が慶應から一橋に変わると喜んでいるのは一橋大OBだけかな。因みに一橋大学OBの結婚相手で最も多いと云われているのが、近所の津田塾大OGである。

日本は明治になって、欧米先進国が、政治体制から工業、商業、文化、一般社会生活等、全てにおいて

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

日本より遥かに進んだ存在であることを知り、必死になって、飲まず食わずの状況で近代化に取り組むことになるが、三名はその代表的功労者であり、就中最も大きな足跡を残したのが渋沢栄一だ。

司馬遼太郎の“坂の上の雲”のなかに、日露戦争直前の明治36年、内務大臣・文部大臣・兼台湾総督の児玉源太郎が、財界大御所の渋沢をアポなしで訪ねる場面が出てくる。

要件を察した渋沢は「児玉さん、日本はとてロシア相手に戦争できる資金はありません。無理に戦えば、戦い半ばで財政が破綻します」と云って児玉を相手にしないが、児玉は何度も足を運び、渋沢を説得する。

そんなやりとりの中で、ロシアに勝てる見込みについて尋ねられた児玉は「作戦の妙を得、将兵が死力を尽くせば、今なら何とかなるが、チャンスはロシアの満州要塞化が完了していない今のタイミングしかない」と正直に告白し、涙をはらはら落とす。

陸軍作戦の全てを担当する児玉源太郎が、ここまで腹を割って話すのを聞いた渋沢も思わず泣き出し、遂に腹を固め戦費調達には何でも協力すると約束する。

坂の上の雲の中で印象に残る名場面だが、この二人の会話に見る明治の人物の気高さ、誠実さ、率直さが近代日本を築き上げた人々のけなげな精神であり、司馬遼太郎が描こうとしたテーマである。

渋沢栄一が創業に携わった企業は東証、第一銀行、東京海上、王子製紙など枚挙に遑がないが、岩崎家や住友家の当主たちと異なり、企業グループを作らなかったところが、いかにも彼らしいところである。

渋沢は「仁義道徳と生産殖利は元来共に進むべきものである」として、論語(＝道徳)と算盤(＝経済)の一致を説いているが、これはグローバル資本主義が暴走する都度、世の中の富の偏在が進む今の時代においてこそ傾聴すべき主張である。

資本主義は本来規制緩和の中で成長すべきものだが、強欲な魑魅魍魎が市場を跳梁跋扈する、仁義も倫理もなき戦いの中で、一定の規制強化は必要ではないだろうか。

因みにお隣の中国では、6種類の人民元紙幣(1・5・10・20・50・100元)は全て毛沢東さん。尤も中国ではスマホの普及に伴い、電子決済によるキャッシュレス社会化が驚くべき速度で進行しており、人民元を飾る毛主席の肖像を、別の主席に変えようなんて議論が盛り上がるような時代ではないのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成31年4月10日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 121 号
日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040